

金沢国税局
武生税務署長

近藤 佳奈恵

平成24年入庁。国税庁総務課、
財務省主税局調査課、
国税庁課税総括課企画係長、
国税庁人事課課長補佐などを経て、
令和3年から現職。

税務署長の仕事

福井県のほぼ中央に位置する「武生(たけふ)」地域。国内約9割を占める眼鏡の生産や、様々な伝統工芸を有するものづくりの町です。「越前がに」など海の幸も豊かなこの地で、第70代目の武生税務署長を務めています。

国税組織において税務署とは、執行の最前線、いわゆる「現場」です。納税者から申告・納税を受け付け、必要に応じて税務調査や、差押え等の滞納処分を行うのが主な仕事ですが、その中で署長は、「現場の最終責任者」の役割を担っています。日々職員が資料を抱えて持ってくる案件は、ここで私が領けば実行される課税処分、滞

納処分であり、納税者の権利利益に直結する重要なものです。署長として最も緊張する場面ですが、長い経験と高い専門性を持つ職員達と議論を重ねて検討・判断しています。

また、e-Tax申告やキャッシュレス納付の推進といった各種施策を外部へPRするため、署のスポークスマンとしての役割も担っています。関係団体などの協力を得て周知・広報したり、セミナーなどの機会に講演したり…署長という立場で地域の方々と接する場面が多くあり、学びの多い機会となっています。

マネージャーとして

武生税務署の職員53名をまとめ、署全体をマネジメントしていくことも署長の重要な業務です。職員一人一人の力と意思を、どうしたら最大限のパフォーマンスに昇華できるか、署のメンバーと話し合いながら、日々試行錯誤しています。

それぞれの事情に照らして働きやすい環境となっているか、事務改善や効率化について声を上げやすい環境ができているかなども、大事なポイントです。

また、国税庁・国税局からは事務運営の方針が示されますが、署の実情や地域の特性を踏まえると、武生税務署ではどのように実行すれば効果的・効率的か?ということも、署のメンバーとよく議論して検討・判断しています。職員から語られる現場での実感は、今後また国税庁に戻って仕事をするにあたっても、大変貴重な声です。

国税庁総合職の魅力

国税庁総合職として働く魅力の1つは、税務行政という一本の軸にあらゆる視点からアプローチ出来ることだと思います。私は、昨年までは国税庁で、国税局や税務署の方針を考える仕事をしていましたが、今年はその方針を受けて実行する立場に立っています。本庁で頭を捻って悩みながら打ち出した方針は、現実とかけ離れたものになっていないか?実際に現場でワークする枠組みになっているか?行政官としてとても重要な視点を、この「本庁⇄現場」のプロセスで身をもって学ぶことができるのは、全国12局・524署の地方支分部局をもつ国税庁だからこその強みです。

この大きな組織が、激変する世の中への環境に対応し、これからも使命を果たし続けていくにはどうしたらいいか。それを考えるのが国税庁総合職の仕事です。一緒にチャレンジしてくれる方の訪問をお待ちしています。

🕒 1日の業務スケジュール

